

●都市農村交流事業

○鴨川市総合交流ターミナル みんなみの里

鴨川市の西北部の長狭地区、国道410号線沿いにあるみんなみの里は、平成11年3月、鴨川市の農村部・長狭地区における都市住民等の農業体験の受入れや優良な農産物の生産販売、地域物産の紹介等による都市との交流を推進する（グリーンツーリズム）の拠点施設として開設されました。



運営する鴨川市農林業体験交流協

会は、地域住民が地域全体のために活動することをモットーに、長狭地区だけではなく、市域全体で活動を行っています。

また、農業者だけでなく地域活性化に興味のある方も会員として頑張っています。

【交流協会員になるには】

- 鴨川市民や市内に事業所のある企業、法人であること。
- 販路の拡大や経済行為のみ目的ではなく、地域興しの義務を負うこと
- 必ず専門委員会に所属すること。

企画委員会（集客や宣伝の為のイベント・行事等の企画を担当）

景観形成委員会（地域景観の形成や転作計画と連携した景観整備）

農産物等供給委員会（取扱う農産物や地域物産の規格・認定及び販売の工夫）

農産物生産委員会（農産物生産計画の調整及び有機農業を目指す栽培改善や普及啓蒙）

地域物産開発委員会（地産地消に基づく地域物産の改良開発支援や郷土料理の企画）

・・・詳しくは、農林業体験交流協会事務局へ

鴨川市宮山1696 TEL04-7099-8055

みんなみの里に併設して、市が開設し農林業体験交流協会が管理する「みんなみの里ふれあい農園（市民農園）」があります。本協会では、市民農園利用者を対象に農業のコツ、農業のプロとしての育成を兼ねた、栽培講習会を定期的に開催します。レベルアップはもちろん地元農家とのコミュニティーの場として利用ください。

【「みんなみの里」の名前の由来は】

郷土の歌人、古泉千樫（こいずみちかし）の詠んだ歌

「みんなみの 嶺岡山のやくる火の こよひもあかく 見えにけるかも」

にちなみ、公募で決定しました。

古泉千樫（1886－1927）は雑誌「アララギ」の発展に力を注ぎました、故郷鴨川の農村風景を詠んだ歌を数多く残し、自然を愛し、郷土を愛していたことが伺えます。

みんなみの里は、周辺農村景観の整備による心和むふるさと創りも進めています。

直売所・物産センターやドライブイン、道の駅のような機能に加え、農業体験やクラフト体験などの受入れによる都市住民との交流を推進する施設として、みんなみの里を核施設として、サテライトとして体験観光施設（イチゴ摘み園・みかん園・各種体験工房等）や名所旧跡（大山千枚田や神社仏閣、史跡、キャンプ場等）・散策コースなどを整備紹介し、関連を深めています。

主な体験メニュー

体験メニュー	期 間	体験メニュー	期 間
菜花（食用）摘み	1～3月	野菜作り教室	通年
イチゴ狩り	1～5月	酪農体験	通年
しいたけコマ打ち	2～4月	わら細工	通年
トマト狩り	2～5月	手焼きせんべい	通年
田植え	4～5月	手焼きおかき	通年
たけのこ堀り	4～5月	鯛せんべい焼き	通年
イチゴジャム作り	4～5月	ガラス細工	通年
案山子作り	4～8月	豆腐作り	通年
農家体験	5～7月	竹細工	通年
稲刈り	8～9月	陶芸	通年
さつま芋堀り	9～10月	陶紙	通年
コスモス狩り	9～12月	草木染	通年
温州みかん狩り	11～12月	太巻き寿司作り	通年
正月飾り	12月	だんご作り	通年
ひょうたん工芸	12～2月	ガーデニング	通年
スイセン狩り	1～2月	里山ウォーキング	通年
炭焼き	秋～冬季	自然観察会	通年

農業・農村の交流から、共生に向け高齢化する農漁村への関心を高めてもらいたい、また、市内への移住に向けてライフスタイルの提案と、幅の広い新しい体験メニューの企画もおこなっています。また、道の駅鴨川オーシャンパークの運営もおこなっていることから、磯をテーマにした体験も提案しています。

漁村体験	援農体験	食育体験
磯辺ウォーキング	柑橘類もぎ取り	味噌加工体験
磯の自然観察会	ハウス片付け	季節の野菜料理体験
ひじき狩り体験	水稻中間管理草取り	野菜ソムリエ料理教室
なめろうづくり教室		